

沼津市のごみ分別収集などを調査 分別方法や処理体制確立を

総務常任委員長 筑井あけみ

当委員会は、2月9日、10日に視察を行い、ごみ処理方法とごみ分別収集について調査した。

調査項目

- ① 廃棄物の自動炭化装置
(株) ヴィクトリー沼津工場
- ② 地域におけるごみの分別収集
(静岡県沼津市)

調査経過

① 自動炭化装置は、廃棄物を低温(約400℃)により炭化させ、残渣を純度約85%前後の炭素にする。熱分解装置のため、一切燃焼させずに処理をする。熱源は灯油・ガス等であり、残渣を最終処分する必要がない。

② 沼津市は、昭和47年に全市域定時収集を開始し、昭和50年には沼津方式(3分別)をスタートさせている。



細かく分別された資源ごみ(沼津市)

考察

平成14年には、高齢者や障害者世帯に対する粗大ごみ分別収集を実施。また、平成19年には資源化物を持ち去る行為を禁止する条例を制定し、ごみの減量化、資源啓発事業も手がけている。

沼津市では、ごみ収集現場において、「家庭系ごみ」「事業系ごみ」など、分別方法、排出方法、処理の体制が確立されている。市民にも認識され、理解されているようである。

廃棄物の処理は、各自自治体においても不可欠な整備であり、苦慮しているのが実態である。クリーンセンターの耐用年数が迫るなか、ごみの処理と分別は喫緊の課題である。早急な対応を求めらる。

スマートIC周辺開発の課題を調査 農産物直売所設置は十分検討を

経済建設常任委員長 島田 栄一

当委員会は2月12日、県内外の物産館3カ所を視察した。

調査項目

- ・ 農産物直売所「ぼんぼこ」
(群馬県藤岡市)
- ・ 道の駅「思川」
(栃木県小山市)
- ・ 道の駅「みかも」
(栃木県藤岡町)

調査経過

関越自動車道と東毛広域幹線道路の交差点地点でできるスマートICは、平成23年度末までに完成が予定されている。運用開始にあわせた周辺開発の課題について調査した。

考察

視察した3カ所それぞれ特色があり、参考になった。スマートICが2年後に完成し、3年後に東毛広域幹線道路が開通すると、玉村

町の交通事情は一変する。このような状況の中、東毛広域幹線道路の沿線に農産物直売所を設置する構想は理解できる。十分検討しながら良い方向を見出すことを希望する。



農産物直売所「ぼんぼこ」売り場では各野菜を使ったレシピも紹介されている

町の介護サービス体制を調査 安心な老後に向け保険制度改善を

文教福祉常任委員長 村田 安男

当委員会は3月5日委員会を開催し、健康福祉課の当面の課題について調査した。

調査項目

- ① 介護保険サービス事業の状況
- ② 施設入居待機者の状況
- ③ 施設の視察(町内2カ所)

調査経過

① 玉村町の要介護(支援)認定者は、第1号被保険者(65歳以上)・第2号被保険者合わせて957名である。居宅介護(介護予防)サービス受給者は、第1号、第2号合わせて566名。施設入所者は、介護老人福祉施設(特養)90名、介護老人保健施設(老健)59名。また、地域密着型(介護予防)サービス受給者は51名となっている。

② 特別養護老人ホーム入所希望者は116名であり、認知症、身体状況等を勘案した場合、緊急度の高いAグループが39人、中程度のBが50人、Cが27人となっている。

考察

平成12年度にスタートした介護保険制度は、行政も事業者もぎりの運営を強いられている。誰もが安心して老後を過ごすためには、現状の保険制度の改善が必要では。『玉村町の介護保険給付金は、月間1億円を超えている』



「にしきの園」視察の様子

活動開始!

県央水質浄化センターに関わる特別委員会



県央水質浄化センター

3月定例会最終日に、新たな特別委員会が設置されました。議長を除く全員(15人)が委員となり、委員長に三友美恵子議員、副委員長に石川眞男議員が選出されました。県央水質浄化センターに関する諸課題について、慎重に調査研究を行っていきます。